

議会改革特別委員会小委員会とのリモート会議での指導・助言 2

指導・助言＝「法政大学：廣瀬克也総長」（高山市議会：議会改革アドバイザー）

1. 冒頭廣瀬先生から指摘いただいた我々の中間報告についての印象と課題

<p>・基本的にはまず納得のいくというか、私としては結論については、私自身としては望ましい結論を導き出されたなというふうに受け止めております。</p>
<p>・中間報告の結論としては現状維持という報告であるが、議論されている中身はもう少し、実質的には積極的な議論をされていると思います。</p>
<p>・議会はこうあるべきだから、最低でもこの人数が必要であるとか、あるいは議会が住民の多様な声を代表する機関だから多様性の中に出てこなければいけない、反映されなければいけない。そのためには議員を削減するということはマイナスに機能するとか。</p>
<p>・本来であれば4委員会設けたいところなのだけれども、現状の3委員会で、1委員会あたりの議員数としてはもう必要最低限ぎりぎりなのだとか。</p>
<p>・現状あるいは今後必要とされ、望ましいと考える議会の機能、審議の充実ということ、それぞれの委員会がいわば専門毎に分かれて深く議論をするためには現状が最低限であって、本当はもっと深く議論したいなどの内容について。</p>
<p>・口頭で市民の方と意見交換する時に強調された方が良いのではないかと思いますのは、議会の中のあるいは議員という集団の持つダイバーシテイ＝多様性ということだと思います。</p>
<p>・少数精鋭という考え方がなぜ議会にはそぐわないのか、あるいは議会の機能を下手をすると損なうことに繋がりがねないという観点。</p>
<p>・少数精鋭という考え方が議会の機能が機能として期待される事柄に照らすと、本質的にそぐわないんだと。</p>
<p>・経営首脳陣みたいな執行機関においては少数精鋭という考え方は成立するし、できるだけそれを追求していくという価値はある。</p>
<p>・それに対していろんな住民の視点から政策を吟味するのが、市議会議員の仕事だと思います。</p>
<p>・サービスの受け手である住民から見ると、ここがおかしい腑に落ちないというような事をそういったものを踏まえての審議・審査が求められる。</p>
<p>・本当にこれで狙った効果が出ますか、あるいは想定されているようなコストですむでしょうか、というようなことをしっかり吟味した上で、できるだけ間違いのない政策を決めていく。</p>
<p>・なので多様な人数がいる、多くの人数がいるということにはそれ自体に価値があるということだと思います。</p>
<p>・現状のこれだけ広域の地域の多様性を持ち、また合併を経ていらっしゃるから地域としての歴史についても多様性を持っていらっしゃる。</p>
<p>・そういう高山市という市の中で、それぞれの視点から政策を吟味していくためには、やはり非常に多様な、できるだけ多様な構成による議員というものが必要になってくる。</p>
<p>・高山のような地域性であればなおのこと一定数を維持して行くという事に、それ自体に価値があるという事です。</p>
<p>・その事を資料の中で触れていらっしゃるというふうに読みましたが、もっと強調してもいいのではないかという印象を率直なところ持ちました。</p>

ここでは

- ① 議会と議員についてのあるべき姿から議論を積み上げてきた内容を、もっと強調して市民説明に向かって良いのではないか。
- ② 議会と議員という集団の持つダイバーシティ＝多様性ということを強調して、市民への説明責任を果たす必要がある。また少数精鋭という考え方は議会が期待される機能とはそぐわないものであることを自覚すべき。

そういった内容でした。

2. 各議員との質疑応答の中でご指導いただいた内容。

質疑①	<ul style="list-style-type: none">・3月議会である程度目途をつけようと言う形の中で、このコロナ下でなかなか市民のご意見を聞くことができなかった。・最終的にフォーラムをある程度クロージングに位置づけて定数を決めていきたいというスケジュールでやってきたがコロナ感染症の蔓延で頓挫した。・この計画といますか、決めるスケジュール的な部分についてどんなふうに捕らえておられるのか。
応答①	<ul style="list-style-type: none">・議員の定数というのは次の選挙における、基本的な選出ルールの枠組みみたいなもの、事前に次の選挙の枠組みはこうだよということを固めておく必要がある。・その意味で言って一年前には結論を出しておこうというタイミングの設定され方は望ましいことだと思います。・いろんな意味で議論が十分に成熟しなかった時取るべき方策というのは、基本的には現状を変えずに議論を継続することなんです。・今回はさっきも申し上げたように議論をした結論として、消極的ではなく積極的に現状維持でいこうということが中間方向で打ち出された。・対面の場で双方向で意見交換した方が、より充実した意見交換になることは確かだと思います。・市民に議会としての考え方を示してはいらっしゃるわけで、現状を変えないということになったときに、実際に市民の意見が盛り上がるか盛り上がらないかと言えば、比較的現状維持というのは盛り上がりにくい提案です。・今回この任期の議員の皆さんとしてこれまでこういうふうに一生涯懸命議論をされてきて、一定の方向性について結論を得たということですから、それをお示しになったうえで、1年後に迫った選挙ではこの枠組みでいきますよということをお伝えになるのは望ましくないとは言えないんじゃないか。
質疑②	<ul style="list-style-type: none">・私たちこれまでこの任期のなかで随分濃密な議論をしてきた。とある程度自負をしております。それは先生に再三我々に対してアドバイスしていただいた内容があるからです。・定数の問題については、従来からある人口数だけの一つの物差しで捉えていっては間違いが起きやすい。だから多角的に検証しながら議論を進めて行きなさいというご指摘を忠実にトレースしてきたからです。・先ほども仰っていただきました、高山市は合併を経験してきておられますので地域特性というものがやはり重要な要素の一つになってくるというご指摘です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・この2年間重視してきたことは、過疎地域の自治体で起こっている、それも広大な面積をもつ高山市だからこそ顕著になってきている、地域格差の問題があるんだということです。 ・その辺のところは今回もう少し強調されても良いのではないかとご指摘でした。 ・その事は議会からの押しつけにならない程度の熱心さでそれを拡散していきたいと今までは思っておりますし、これからもその必要があるんだと思います。 ・われわれのやってきた方法に間違いはなかったかと、そういうようなご批評を少しいただきたいなと思います。
<p style="background-color: #90EE90; display: inline-block; padding: 2px;">応答②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革に議会が、あるいは議員の皆さんが熱心に取り組まれている温度感といいますか、そのコミットメントの強さに対して、市民の方々が議会というものに対してそういう意味での関心のコミットメントは、それほど実態としては深くないというのがほとんどの場合。 ・ある種すれ違いが起こってしまうみたいな構図が生じることは確かにあると思います。その温度差を十分に解消できるとも、絶対しなきゃいけないとも思いません。 ・ある種、代表制民主主義というものは選出された人たちは普通の有権者の方々、普通の市民の方々以上に深くコミットして市政に関わっていただかないと困る人たちですから、その温度差が生じるのはある種宿命みたいなものだと思います ・確かに考え方の押しつけになってはいけないという部分については十分配慮される必要があると思いますが、あまり奥ゆかしくあり過ぎても伝わらないということもあると思います。 ・伝えるだけではなく聞くという姿勢で対話に臨み、それによって「多少なりとも分からなかったことが分かるようになれば、もっとより良く議員活動ができるようになりますから」というスタンスで向かう事が必要では。 ・対話の時には伝えに行くという議員発の部分も大事なんですけど、一定の時間はざっくりばらんに言いたいことがあれば何でも言ってくださいと、耳を傾ける時間を取ることによってバランスしていくしかない。 <p>一方通行でなければ多少の温度差はやむを得ないし、あっても良いのではないのでしょうか。</p>
<p style="background-color: #ADD8E6; display: inline-block; padding: 2px;">質疑③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状高山市議会は24人の定員ですが、様々な事情により22人というかたちで、三つの委員会の中で規定より少ない7人の委員会が二つあります。 ・市民の方言われるには「それでも十分できているではないか」というような言い方をされる場合があります。 ・その中で先生の言われるような多様なばらばらの見方というもの、多様性の力は必ず欠如してるんですよとか、違う見方での議案審査の調査力であるとかはあきらかに減少してるんですよという言い方はしている。 ・数値として現れるものではないのでなかなかご理解いただけないことがある。
<p style="background-color: #ADD8E6; display: inline-block; padding: 2px;">応答③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに8人の委員会と7人の委員会がそんなに本質的に違うのかと言われたとき、実際の委員会で審議をされている方にとっては実感として分かるところなんだろうと思いますが、これを伝えるのは大変難しい問題。 ・少数精鋭でみんなが「有能」になると理屈が通っていればそれで納得するし、制度のロジックとか行政の組織的なロジックで理屈が通っていれば納得してしまう。 ・そうではないところで腑に落ちないと納得してくれない様な、その意味で言うところちょっと変

	<p>わった人がいてくれる方が見落としがない、ということがあると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総数として減っていけばいくほど、ある意味で変な人は受かりにくくなるし、その意味では少数精鋭的な集団になっていくかもしれないが、その少数精鋭的な集団になることによって議会として期待される役割のある重要な部分が抜け落ちてしまう危険性が高い。 ・行政職員というのはある種の専門能力があって、試験に受かって、責任を持って制度運用をする人でなくてはいけない。 ・だけれども議員のなかにはそういった縛りは相対的に少ないんだから、ちゃんと変わった人がいる議会でない、議会としての本質が損なわれるというくらい大事なことなんだと思う。
質疑④	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数の問題で協議してきたが、こういった高山市においてこういった形の中で議員のなり手は確保でき、そして興味を持っていただけるのか ・飛騨市の方では14人の定数でも選挙で定数割れしたという事の中で、次回も選挙戦という形にするためには、市民の方々にこういった議会の基本というかそういう関心を持っていただくことが良いのか。 ・飛騨市においては女性が3人ですが高山市は24名中1名ということがあるんですが、議会に対しての市民の関心度をどういう風にしたら上げていけるのか、
応答④	<ul style="list-style-type: none"> ・定数を増やせば担い手が増えるということは残念ながらそう簡単にはおこらないと思いますが、減らせば減らすほど、こういう地域性のなかで何人だったらこういうタイプの人しか議員にはなれないだろうなという様なイメージが固まっていく。 ・人口との比例というよりは議員の絶対数が効いてくると思います。 ・24人の定数で競争的な選挙が維持できるようにしようと思ったら、やっぱり次の世代の担い手を育てるための積極的な取り組みを継続的にやっていかれる必要性が高いと思います。 ・議会の活動の中に市民が参加をする、そういう場面をできるだけ設けていただくことが必要で、議会に関わることによって、政策に対してこんな関わり方ができるんだと実感される方が広がります。 ・一つの議案や政策について説明を聞いて質疑応答するという程度ではなくて、むしろ地域課題を政策として、一定の政策提言みたいなものを議会が市民と一緒に作って行政に提出していく、提案していく。 ・それが実際の政策になっていけば、なるほど自分のあるいは地域の生活にこんなふうに参加できるんだという実感が持てるのか、そういう場面が出てきますのでそれをとおしてならばやってみたいと思う人はその中から生まれてくるんじゃないかと思います。
質疑⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・8月には、先ほどもありましたが2名欠員になっておりますので補欠選挙が行われます。最終決定をした段階で仮に減員という結果になったとしますと、その場合その半年後には統一選があります。 ・8月の補選で24ということで定数を確保して、そして減員となりますとそこでまた選挙ということになりますが、この辺の議会としての決定の仕方の責任をどうとらえて対応したら良いのか。 ・もう一点、定数を議論するところで市民の皆さんの多くから報酬との兼ね合いがずっと指摘を受けます。定数のことは物理的な議論で収まったり、私たちが使命としてやらなきゃいけな

	<p>いことを訴えていけばそれなりにご理解いただけるのかなと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬の議論になるとむしろ定数よりも報酬の方が難しくなってしまうのではないかと若干危機感を持っております、ご助言・アドバイスいただけたらと思います。
応答⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に補選があるとすれば、しっかりと事前にそのゲームのルールを確定しておくべき。できるだけ早く次の改選時の定数については確定して、一定の期間を経てから補選が行われるという条件を確保すべきだ。 ・その意味でいうと、もうこの3月議会はある意味ぎりぎりのタイミングなのではないかと思えます。 ・報酬の件は仰しっるとおり大変難しいと思います。これだけ様々な経済変動があつて、例えば今高山では恐らく観光業にとってはこの2年大変厳しい時期が続いていると思いますし、その中で議論をしていくと、これは冷静に合理的に判断するというふうには割り切れない。 ・こういうときに市民の痛みが分からないのかみたいな感情論ももちろんあるとは思いますが。 ・本来の制度上の条例で決まった報酬額というのは、こういう条件の時にはいじるべきではないと私は思います。議論もちょっと今は難しいのではないのでしょうか。 ・経済的に経常的な状態が戻ってきた時に、あるべき本来の報酬の今後の額というものは、初めて冷静に良い議論ができる条件が整うのだと思います。
質疑⑥	<p>冒頭に、気になる点として「現状維持」という言葉が前面に出すぎてるのじゃないかというようなご指摘を頂戴しました。</p> <p>市民の皆さん非常にネガティブな言葉として受け止められるのかなと感じています。</p> <p>これまで徹底して議論をしてきたことにより、議会あるいは議員の役割やニーズみたいなものを洗い出して再認識してきた。その議論の価値というものは非常に大切にしております。</p> <p>それらを確実に取り組んでいくため、あるいはさらなる機能向上していくために必要な人数が24人なんだと。</p> <p>「現状維持」という言葉の内容は伝わりにくいという印象が大変あり、やはり保守的、ネガティブな印象を持って捕らえられる。うまく伝える方法があれば、難しいかもしれませんがご指導いただけるとありがたいなと思います</p>
応答⑥	<p>事実として現状の定数を維持するということについては全くの事実ですから、同じ事をどう伝えようとそのニュアンスで受け止められる部分はどうしても出てくる。</p> <p>他方で条件が許せばこのようにしてもっとこんなふうな議会にしたいのだ、ということを述べられたうえでの現状維持だとの説明を。</p> <p>とはいえ増員については、どんなにそれによってこれ位のことが期待できるとはいっても、将来の意欲や期待のために議員報酬何人分といういわば将来への投資をするということ。</p> <p>この社会経済環境の中でそれだけの追加投資を市民の皆さんにお願いしますとまでは、残念ながら言えない。</p> <p>増やすことが可能な条件下であればそこまでやりたいんだけど、せめてこの現状の24人の人数でここまでは行きたい。そう伝えることがぎりぎりなのかなと思う。</p>